

ナビゲーター

て、セルビアはより広範な欧州市場への戦略的参入拠点となるだろう。

この10月中旬、首都ベルグラードで開催されたセルビア・日本フォーラムは、両国間の関係を深化させ、特にデジタル技術や協働に関する相互の関心分野を浮き彫りにし

東欧企業の生産性向上とイノベーション促進のために、選択可能な先進技術と最適解を紹介できるユニークな立場にあるのが日本企業だ。日本企業にとっても、特にデジタルトランスフォーメーション(DX)が必須の分野におい

日本への期待
世界各地から

H

111

将来に向けた継続的協力関係を

た。このイベントは両国の指導者や専門家が集い、DX、通商、エネルギー効率など協力の可能性がある分野を探索した。セルビアは日本にとって価値あるパートナーになると明言し、継続的な対話のための基盤を構築した。技術協力とデジタル化に重点を置くこの議論は筆者の仕事に直結し、国境を越えた各種事業に大きな可能性が存在する分野といえる。

新型コロナウイルスの世界的まん延は全世界の人々を混乱に陥れたが、私のような事

セルビアとの協働への期待 (下)

業では、シートベルトなしに止まらないジェットコースターに乗っているようなものだった。DXの必要性は一晩で加速し、企業はリモートワーク、TV会議、デジタルサービスへの対応を余儀なくされた。私の会社はたちまち緊急対応に追われ、企業のシステム改修とデジタル対応のために支援することになった。

この期間、私たちはコロナまん延によるロジスティクスや技術上の障壁を克服する顧客サポートを仕事としたように、回復力(レジリエンス)と革新性が要求された。同業者も私も、急速に変化する経済環境上の制約に対処しつつ、限られる経営資源で顧客の緊急の要望をかなえる課題に直面した。

技術とイノベーションをと

未来を見据えると、回復力おし東欧企業が回復力を構築するための支援にあたる日本の役割が、新たな変革をもたらす可能性は高いと思う。セルビアと日本が協力すること、生産性を向上させ、持続可能な成長を生み出す新たな課題解決を提供する機会が生じると考える。

ピアに継続的な関心を持ち続けてくれることで、より大きな協力関係が生まれることを信じている。このような協力関係は、共通の価値観と相互信頼の上に築かれる東欧のために、より安定的で革新的な経済基盤を提供することができ

るはずだ。セルビアと日本の協力関係は異文化間協力の力を証明するもので、この関係がどのように発展し、両国にとり長期的な利益をもたらす技術力による強靱な未来に貢献するのか、私は楽しみにしている。

【BUSコンピュタCEO、セルビア経営コンサルタント、チュプリロ、リム中産連】

(月曜日に掲載)